

請 願 文 書 表

受 付 番 号	第 3 2 号
受付年月日	令和 8 年 8 月 2 5 日
件 名	市議会として建設費と金利上昇等の客観的情報の収集と専門家の意見を求める請願
請 願 者	三田市 三田市民病院をまもる会 東浦 徳次
要 旨	<請願の趣旨> 三田市民病院は長年にわたって三田市内の開業医と連携を取り中核病院として重要な公立病院の役割を果たし、多くの市民の健康と命を守り続けてきました。しかし、国による大幅な医療費削減政策の下、このままでは市民の命と健康を守ることができないとして、前市政において市民病院と済生会兵庫県病院による再編統合計画が進められてきました。 2023年7月の市長選挙では「現在地で現市民病院の維持・充実を求める」2人の市長候補の得票合計が前市長候補の得票を大きく上回る結果を出し、市民病院の再編統合問題に明確な市民による判断が示されました。 ところが、現市長は一大争点となった選挙公約を翻し現在に至っています。 三田市は再編統合による新病院建設費用について、当初、基本構想における市民説明会では、建設費の参考費用として254億円と説明していました。ところがこの間、2回の改定金額で利息含む760億円へと実に3倍にも高騰する事態になっています。 加えて長期金利の上昇、円安、中東情勢などにより、今後もさらなる建築費の高騰が予測される事態となっており、新病院建設費用は利息含む760億円を大きく超えることが懸念されます。 こうした事態を勘案すると、市の負担は186億円だけでなく増大する利息の支払い、修繕費や高額医療機器更新費用の三田市負担など、市民や市議会への詳細な説明や市財政への影響とその対策が示されていません。 市は2035年以降の市財政状況がさらに厳しくなると抽象的な説明のみであり、実質公債費比率や将来負担比率を明らかにしていません。 こうした状況下で新病院建設をこのまま進めることは、市財政の大幅な収支不足（赤字）を招き、市政運営に重大な影響とともに、市民への過大な「痛み」を行政自らが求める事態となってきたことに、私たちは危機感を持ち、様々な手法で調査を行ってきました。 人口減少が余儀なくされている中、市が昨年12月に公表した「財政ロードマップ」では、10年後も現在の人口をほぼ維持していると仮定した対策となっているなど、あまりにも甘い予想が示されています。 県下10の全ての県立病院は、2023年度～2024年度と2年続けて100億円前後の過去にない赤字状況でした。全国の公立病院では8割が赤字という状況下であるのに、新病院開院後2年目から毎年数億円の黒字という楽観的予想計画を、根拠も示さないまま議会と市民に示し続けています。 よって、再編統合による新病院の在り方そのものに賛成の立場であったとしても、

	このような不確かな見通しによる大規模工事の新病院建設と市財政・市民生活への影響について、数字的に判断していただける専門家の意見を求めることが不可欠であると考え、その実施を求めます。 < 請願事項 > 新病院建設と市財政・市民生活への影響について、数字的に判断していただける専門家の意見を求める。
紹介議員	長尾 明憲
付託委員会	経営政策常任委員会